

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料4

令和元年12月24日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
-------	-----------------

評価対象事業名:	令和元年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)
----------	--

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持</p> <p>(利用者実態調査等の結果より、利用者総数は少ないものの「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握することができ、高齢者等交通弱者の交通手段確保の必要性が明らかにされた。また、「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、利用者実態調査やモニタリング調査を実施し、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、市民生活と地域を支える持続可能な地域内フィーダー系統としてのコミュニティバスを確保・維持していくことが必要である。)</p>
-----------------------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和元年12月24日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 令和元年度地域公共交通確保維持事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通(株)	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは地域間幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。	○ニーズに即した運行改善の検討(実施主体:市、市民、交通事業者) ⇒地域住民からの強い要望を踏まえ新たにバス停を設置し、あわせて鉄道(主に急行)や飛島公共交通バス蟹江線への接続に配慮したダイヤ調整を実施(H31.4.1~) ○情報提供等周知活動の実施(実施主体:市) ⇒きんちゃんバス非利用者にも配布される住民アンケートの案内文に、料金体系やシルバーパス、サイクル&バスライド駐輪場などの運行情報を掲載 ⇒新時刻表の地図ベースとした路線図への地域活性化の取り組みの情報を掲載し、きんちゃんバスだけではなく、周辺自治体が運行するコミュニティバスや近鉄の運行情報へとアクセスできるQRコードも掲載 ○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起し(実施主体:市、交通事業者) ⇒市内全世帯及び小学生に配布(新規利用者66名のうち約3割が高校生以下。約9割に今後の利用意向)	A 計画通り、弥富市内を巡回する3路線を運行するとともに、モニタリング調査(利用者アンケート)や利用実態調査(利用者数(毎日)、OD(1週間))等を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めた。また、協議会を計4回開催するとともに、無料お試し乗車券の配布による新規利用の発掘、広報誌やHP、イベントの場等を活用した情報提供に努めており、適切に実施している。	B 【利用者満足度の向上】 ・モニタリング調査(利用者アンケート)による満足度について50%以上の維持目標とし、48.9%と前年度よりも減少⇒53.1%→48.9% (「非常に満足」「やや満足」の割合) A 【1便当たり乗車人員数の増加】 ・1便当たり乗車人員数の前年度からの増加を目標とし、南部ルートを除き増加 ⇒北部ルート:9.1人/便→10.2人/便 B ⇒南部ルート:8.6人/便→8.6人/便 A ⇒東部ルート:9.8人/便→10.5人/便	地域公共交通網形成計画の見直し・再編 地域公共交通網形成計画の見直しに向け、住民意見交換会を今後も開催することで各地域におけるより具体的な課題や望まれる姿を明らかにし、利便性の高い持続性のある公共交通の実現を目指す ⇒地域公共交通網形成計画の見直し:令和元年度から2か年 ⇒住民意見交換会の開催:令和元年度各地区2回、令和2年度各地区2回程度開催予定 継続的な利用促進活動の推進 市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知のほか、新規利用者を確保するために無料お試し乗車券の配布も継続実施するなど、利用促進活動を継続的に推進し利用者増を図る ⇒アンケート調査や広報、HP、健康フェスタ等のイベントなどの住民との接点を活用し、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしいクルマの使い方の情報を提供 ※H31.4の新時刻表に周辺自治体が運行するバスや鉄道ダイヤへアクセスするQRコードを掲載 ⇒無料お試し乗車券の配布による継続的な新規需要の掘り起しの継続的な実施 ⇒地域公共交通講演会の定期的な開催によるバスに対する意識啓発

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和元年12月24日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	令和元年度地域公共交通調査等事業のうち地域公共交通調査事業(計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持</p> <p>(利用者実態調査等の結果より、利用者総数は少ないものの「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握することができ、高齢者等交通弱者の交通手段確保の必要性が明らかにされた。また、平成28年3月に策定した弥富市地域公共交通網形成計画(現行計画)に基づき、運行の改善や利用促進策を展開し、市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通を確保・維持を図ってきた。そのような中、公共交通を巡る環境は刻々と変化してきており、また、現行計画の目標年が平成32年度と近づいてきている。</p> <p>そこで、れまでに蓄積されてきたデータのほか、利用者実態調査やモニタリング調査、住民意向の把握等の各種調査結果など、公共交通を取り巻く基礎的な情報を収集、整理することで、現在の地域公共交通網の問題点や課題を明らかにし、地域公共交通網形成計画の見直しの方向性を検討するものである。)</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和元年12月24日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p style="text-align: center;">【事業内容及び結果概要を記載】</p>	<p style="text-align: center;">A・B・C 評価</p> <p>【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】</p>	<p style="text-align: center;">【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】</p>
<p>①運行の実証に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OD調査: シール形式の調査票を利用者に配布し1,790件の回収(利用者に対する回収率97.5%)を得た。「近鉄弥富駅南口」や「イオンタウン」、「弥富市役所」、「海南病院」、「総合福祉センター」、「十四山総合福祉センター」、「佐古木駅」などの市内主要施設を中心とした動きが多いことを把握。 ・利用者アンケート調査: 調査票を利用者に配布し100件の回収(回収率34%)を得た。前年度よりも満足度が低下し、不満が増加しており、不満の理由としては「運行本数が少ない」が多いことを把握。 <p>②住民意向に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民アンケート調査: 15歳以上市民2,000名に配布し828件の回収(回収率41%)を得た。日常の目的別の交通行動のほか、きんちゃんバスの利用状況や重要項目、バスで行きたい・行ってみたい施設などを調査した。重要と思う項目では「運行本数」が最も多く、行きたい施設においては、現状のバス路線網でほぼカバーできている状況を把握した。 ・住民意見交換会: 市内を北部ルート、東部ルート、南部ルートの3地区に分け、各2回の住民意見交換会(ワークショップ)を開催し、地区ごとに地域公共交通で支えるターゲットや将来に向けた課題などを議論した。 ・シンポジウムの開催: 2019.11.9(土)に「きんちゃんバスのこれまでとこれから」と題し、学識を招いた講演会を開催し100名の市民が参加。 <p>③現況と問題点課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は増加傾向を維持しており、アクセス要望の多い施設は概ね現在の路線網でカバーできている状況であるが、全市的には運行便数が少ないことやバス停まで遠い地域があること、所要時間が長いことへの不満が多くなっていることが明らかとなった。 <p>④協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計4回の協議会を開催し、各種調査内容やその結果などについて議論。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>計画通り、運行の実証に関する調査(OD調査、利用者アンケート)や住民意向に関する調査(住民アンケート、住民意見交換会、シンポジウム)を実施し、できる限り利用実態や住民ニーズの把握に努めた。また、協議会も計4回開催しており、適切に実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度地域公共交通確保維持改善事業のうち陸上交通(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)の申請を予定 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善 <ul style="list-style-type: none"> →飛島公共交通バスや木曾岬町自主運行バスと連携し、より利便性の高い乗り継ぎの可能性を検討 ●新たな運行方法の導入と適切な大きさの車両導入検討 <ul style="list-style-type: none"> →利用の少ない地域への予約制運行の導入や、所要時間の長い地域への特急便の導入など、新たな運行方法も視野にいたった再編を検討 →タクシー車両の有効活用や、更新時期に合わせたワゴン車の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入を検討 ●ニーズに即したダイヤの見直し <ul style="list-style-type: none"> →住民意向に関する調査結果等を基に、ターゲットを明確にしたダイヤの見直しなどの検討を実施 ●周知・利用促進活動の積極的展開 <ul style="list-style-type: none"> →これまでに実施してきた無料お試し乗車券の配布やサイクル&バスライド駐輪場、シルバーパス等の利用促進策や周知活動を継続的に実施 →近鉄弥富駅や佐古木駅等へのバス情報の掲示など、鉄道事業者との連携した利用促進策の展開

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統 平成30年6月26日 確保維持計画策定

地域の特性と背景

- 平成22年3月「弥富市地域公共交通総合連携計画」策定
- 平成28年3月「弥富市地域公共交通網形成計画」策定
- バス利用者の約7割が75歳以上、65歳以上を含めると約8割が高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的が多い。(75歳以上には無料パスカードを全員に配布)

総合計画・都市マスにおける公共交通(バス)の位置づけ

- 総合計画：コミュニティバスの利便性向上(重点施策)
- 都市マス：弥富駅を中心に、高齢者をはじめとしたすべての市民が利用しやすい交通環境の整備

弥富市地域公共交通網形成計画(見直し中)

○計画期間

平成28年度～平成32年度

○基本方針

市民生活と地域を支える
持続可能な地域公共交通
の確保・維持

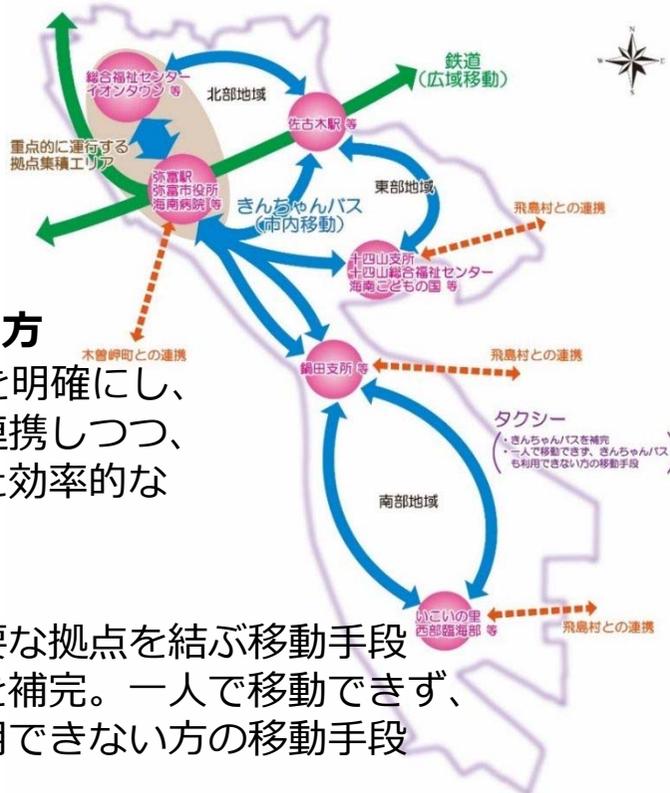
○地域公共交通の連携の考え方

主要な地域公共交通の役割を明確にし、まちづくり等の関連計画と連携しつつ、地域特性や利用状況に応じた効率的な地域公共交通を展開

鉄道：広域的な移動手段

きんちゃんバス：市内の主要な拠点を結ぶ移動手段

タクシー：きんちゃんバスを補完。一人で移動できず、きんちゃんバスも利用できない方の移動手段



現在の地域公共交通網



主な取組み内容

○ニーズに即した運行改善の検討 (実施主体：市、市民、交通事業者)

⇒地域住民からの強い要望を踏まえ新たにバス停を設置し、あわせて鉄道（主に急行）や飛島公共交通バス蟹江線への接続に配慮したダイヤ調整を実施することで、より利便性の高い運行への改善を実施 (H31.4.1～)

○情報提供等周知活動の実施 (実施主体：市)

⇒利用者アンケートだけでなく、きんちゃんバス非利用者にも配布される住民アンケートの案内文に、料金体系やシルバーパス、サイクル&バスライド駐輪場などの運行情報を掲載

⇒新時刻表の地図ベースとした路線図への地域活性化の取り組み（やとみ恋めぐりスイーツマップ）の情報を掲載し、きんちゃんバスだけではなく、周辺自治体が運行するコミュニティバスや近鉄の運行情報へとアクセスできるQRコードも掲載 など



○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起し

(実施主体：市、交通事業者)

⇒市内全世帯及び小学生に配布し、利用期間は親子での継続的な利用機会の創出を図るための夏休み期間のほか、高齢者等の利用にも配慮し、涼しくなる9月も含めた2ヶ月間に設定

(新規利用者66名のうち約3割が高校生以下。約9割に今後の利用意向)



※その他主な取組み

- ・ 75歳以上への無料パスカード配布
- ・ シルバーパス等の販売
- ・ 福祉タクシー料金助成事業の実施
- ・ NAVITIME、駅すぱあとでのダイヤ検索対応 等

※福祉タクシー料金助成事業
⇒利用者が年々増加傾向



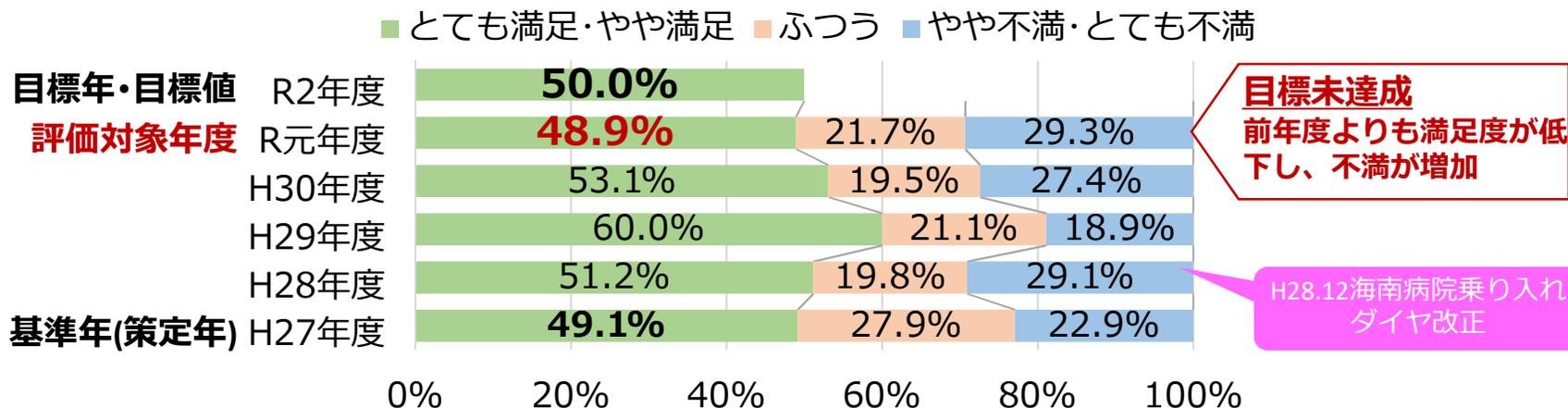
基本方針：市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持

目標1：利用者満足度の向上（50%以上の維持）

【目標設定の趣旨】

現在の利用の中心となっているのは高齢者であるが、買い物や通院、公共施設利用のほか、ルートによっては通勤・通学でも利用されるなど、ルートによっても利用特性が異なる。そのため、誰もが使いやすい地域公共交通であるためには、これら利用特性や地域特性に応じた的確で継続的な改善が必要である

⇒継続的な改善を総合的に評価する指標として利用者の満足度を把握し、その向上を図る



⇒海南病院への乗り入れを開始した翌年のH29年度をピークに満足度が減少傾向

⇒不満理由の多くが「運行便数が少ない」

※満足度 北部ルート：49.0%、南部ルート：38.9%、東部ルート：53.1%

平日運行便数 北部ルート：11便/日、南部ルート：15便/日、東部ルート：5便/日

- 住民意見交換会を開催することで各地域におけるより具体的な課題や望まれる姿を把握
- 現在の運行形態（定時定路線）に拘らない方法よる運行への再編も視野に検討を進める

基本方針：市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持

目標2：1便当たり平均乗車人員の増加（前年度からの増加）

【目標設定の趣旨】

将来的な人口の減少が予測されている中、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通へと発展し続けるためには利用者の確保が必要である

⇒現在の1便あたり平均乗車人員の状況を最低限維持するとともに、継続的な改善と利用促進策の展開により、できる限り増加を目指す

補助年度(10月～9月)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
利用者数	69,704	72,628	78,494	78,835	82,534
北部ルート	23,416	25,602	28,240	29,321	32,652
南部ルート	35,661	35,493	37,334	35,682	35,186
東部ルート	10,627	11,533	12,920	13,832	14,696
1便当たり平均乗車人員	8.0	8.2	8.9	9.0	9.5
北部ルート	7.3	7.9	8.8	9.1	10.2
南部ルート	8.7	8.5	9.0	8.6	8.6
東部ルート	7.6	8.1	9.1	9.8	10.5

決算年度(4月～3月)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度(目標年)
1便当たり平均乗車人員	8.0	8.7	9.0	9.2	9.7	9.8
北部ルート	7.5	8.3	9.0	9.8	10.3	11.8
南部ルート	8.4	9.0	8.8	8.4	8.8	8.7
東部ルート	7.8	8.6	9.4	10.3	10.6	9.5

全体の利用者数は増加傾向を維持し初の8万人超え

目標一部未達成
 北部ルート、東部ルートで初の10人/便超え
 南部ルートで横ばい（微減）

網形成計画の目標値達成にはもうひと伸びが必要

※目標値は過去の実績を直線トレンドで設定

⇒南部ルートの不満理由の多くが「運行便数が少ない」
 ⇒住民意見交換会などではバス停までの遠さや所要時間の長さに対する意見が多い
 （1週の所要時間：2時間半）

- サイクル&バスライド駐輪場などの周知など、継続的に利用促進活動を推進
- 所要時間の短縮など、利便性向上を図るための再編等の検討を進める

地域公共交通網形成計画の見直し・再編

- 利用者の満足度が低下し不満足が増加（運行本数が少ないことに対する不満が多い）
- 全体的な利用者数は増加傾向を維持しているが、一部ルートで伸び悩み
- 車両の小型化やデマンドなど新たな運行方法の導入などの要望あり（主に未利用者から）

地域公共交通網形成計画の見直しに向け、住民意見交換会を今後も開催することで各地域におけるより具体的な課題や望まれる姿を明らかにし、利便性の高い持続性のある公共交通の実現を目指す

⇒地域公共交通網形成計画の見直し：令和元年度から2カ年

⇒住民意見交換会の開催：令和元年度各地区2回、令和2年度各地区2回程度開催予定

継続的な利用促進活動の推進

- 無料パスを配布している75歳以上の利用が約7割
- 利用目的の多くは買い物、通院、公共施設利用
- サイクル&バスライド駐輪場や飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎに関する認知度が低い
- きんちゃんバス未利用者の約2割は自宅最寄りのバス停の位置も知らない
- 無料お試し乗車券により66名の新規利用者を獲得（今後の利用意向約9割）

市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知のほか、新規利用者を確保するために無料お試し乗車券の配布も継続実施するなど、利用促進活動を継続的に推進し利用者増を図る

⇒アンケート調査や広報、HP、健康フェスタ等のイベントなどの住民との接点を活用し、きんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報、かしこいクルマの使い方の情報を提供

※H31.4の新時刻表に周辺自治体が運行するバスや鉄道ダイヤへアクセスするQRコードを掲載

⇒無料お試し乗車券の配布による継続的な新規需要の掘り起しの継続的实施

⇒地域公共交通講演会の定期的な開催によるバスに対する意識啓発

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統 平成30年6月26日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> アンケートの案内文にバス情報を掲載し、お試し乗車券を配布するなどの利用促進を確実に実施し、1便当たりの乗車人数が（南部ルートを除き）増加していることを評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートだけでなく、きんちゃんバス非利用者にも配布される住民アンケートの案内文にもバス情報を掲載 北部ルートと東部ルートで過去最高の利用者数を記録したが、南部ルートで苦戦 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民との接点を持つ場などを有効活用し、積極的な利用促進を展開する 住民意見交換会を通し、運行方法の変更や再編も視野にいたれた検討を実施する
<ul style="list-style-type: none"> 商工観光課とも連携し、市内の見どころを巡ることのできるマップを作成するなど、観光にも力を入れていることを評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 新時刻表に地域活性化の取り組み（やとみ恋めぐりスイーツマップ）の情報を掲載し、周辺自治体が運行するコミュニティバスや近鉄の運行情報へとアクセスQRコードも掲載するなど連携を拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 市広報なども活用し、関係部局とも連携した継続的な情報提供を実施する
<ul style="list-style-type: none"> 今後は第二次網形成計画の策定に向け、利用実態調査や意見交換会などを実施し情報を備蓄することで、利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークが構築されることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期網形成計画の策定に向け、住民意見交換会を各地区1回開催し、アンケートなどでは把握できない課題や、地域が望むターゲット（運行目的）を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 住民意見交換会は今後も各地区3回程度の開催を予定しており、現在の運行形態（定時定路線）に拘らない方法による運行への再編も視野に検討を進める

市民を対象とした地域公共交通講演会を開催

参加者数：100名

○公共交通の置かれた現状を認識していただき、利用促進のほか今後の地域公共交通網形成計画見直しに向けた意識啓発を図ることを目的に「きんちゃんバスのこれまでとこれから」と題し、講演会を開催

⇒「きんちゃんバスのこれまで」では、巡回福祉バス運行開始当初～現在までの運行の経緯や現在の利用状況、収支状況などを説明

⇒「きんちゃんバスのこれから」では、学識（弥富市地域公共活性化協議会座長）により、コミュニティバスの置かれている現状や先進事例などを交えながら講演

- 会場に至る通路に、啓発ポスターやこれまでの路線図、きんちゃんバスの改変内容などの様々な情報を掲示



- 講演会の様子

